

先日、理科作品の審査会に出席させていただきました。

会場の机上には工作品・壁には観察記録と資料が掲示され、原本論文はところせましと場所を占めています。

審査員の方々が「今耳は昨日に較べるとや、作品が少ないかな?」とおっしゃっていましたが、私の見

たところでは質の高い作品が目立つ、素晴らしい作品展だと感心しま

す。作品の中には夏期計画による動

理科作品展を見て 印旛地方出張所長 百井壁生 弥

子どもに自由な構想による創作絵本づくりをやらせたら、工作好きな方々も、何をかいたらよいかわからぬひとりて、涙をためて二時間余り何もかかないで終ってしまった。帰宅後何でも自由につくつてもいいといつ工作は大嫌いだと訴えたそいつである。形や手順が与えられたものについては要領よくこなす力はもつていてながら、自分で割りだす力はさきわめて弱い。というところに今の教育に問題があると思われる。この傾向は海外文化の受け入れに急であるを我が

としてして、毎日丹念に見たままでして、自分の言葉・絵・数量でしるして、予想した以外の変化をきちんと見て、それを書きとめてありました。この研究論文など、どれをとっても児童生徒の努力のあとがまだあると見られるものがばかりです。

工作についても夢を実現させよ

う」と一矢けんめい作ったもの・書

し」とおっしゃっていましたが、私の見

たところでは質の高い作品が目立つ、素晴らしい作品展だと感心しま

す。作品けれども、それぞれの学年の

段の学習を使う器具の改善をめざしたもの・生活用具の改良をめざす道具を自由に使い、アイデアを生かして作りあげたものばかりで、作品けれども、それぞれの学年の

ちの観察」「たにしの観察」へ

と発展し、更に中学生の「コムラ

サキの成長過程」へと高度な研究

論文に広がってきたのではないか

と思いました。工作品についても

今年は例年比較して出品作

数が少なかつた。

論文を審査して 草原川折日庸雄

小学校に関する二年・四年生にして五年の作品が少なかつた。しかし少なじ作品の中で印象に残ったのは、一年「かえるのなまこ」であった。一年「かえるのなまこ」では、私たちの系で、この固定的な使い方の概念を破つたところに新鮮味があった。

また、二年「空中自転車のりし」のように、バランスと回転運動と組み合わせたところによく、もう少し研究した作品がある。

一方、中学校の作品では「運動の研究等で理科教育の水準高揚にいただいたいを理作展は、その中心教科として教育課程や指導法が研究されてきた。今日みせた研修の成果で、研修行事や理作展が研究されてきた。この作品が県や全国の段階で立たれた創意によるもの、既成の道具によるもの、既成の道具によるもの、既成の道具によるものであることを思って、みせていただいた感想

が、全体に低調であった。最後に、なぜより作品が少ないのか、この辺で考える必要がある。毎回この作品展があるところ前提とする芽を育てた事と忘れることが、どうしたらアイデアあふれる作品を多数出品できるか、そのための方策を理科主任はもちろん、学校ぐるみ・そして部会ぐるみの検討を立てておくるべく努力する心を痛感したのである。

それと出させ、育てる努力が指導者にないのではないか。そんなところを考えざるを得なかつた。

末年度は こんな点を

くらうつ工作を審査していく

年に心がけたいものです。

このように、基本的な現象・事

実をどうやってする姿勢が「へ

り実用化しようとしたもの・身近

な道具を自由に使い、アイデアを

生かして作りあげたものばかりで

、作品けれども、それぞれの学年の

ちの成長過程」へと高度な研究

論文に広がってきたのではないか

と思いました。工作品についても

今年は例年比較して出品作

数が少なかつた。